

2017年度

自 2017年4月1日 ~ 至 2018年3月31日

事業報告

公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟

〔I〕法人の概要

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟は、内閣総理大臣より公益社団法人への移行が正式に認定され、平成23年4月1日に設立登記を行った。

1. 設立年月日

公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟 (沿革)	平成23年4月1日
日本アマチュアダンス協会	昭和52年4月1日
日本ダンススポーツ連盟	平成11年2月7日
社団法人 日本ダンススポーツ連盟	平成14年8月6日

2. 定款に定める目的

この法人は、わが国におけるダンススポーツの統一組織として、ダンススポーツの振興を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業

- (1) ダンススポーツ競技会の実施、認定及び競技規則の制定
- (2) ダンススポーツに関する講習会等の実施及び啓発・普及活動
- (3) ダンススポーツ競技者、指導者及び審判員の育成
- (4) ダンススポーツ競技者、指導者及び審判員等の認定、資格付与及び規則の制定
- (5) ダンススポーツ技術に関する認定、資格付与及び規則の制定
- (6) ダンススポーツに関するサークル、クラブの育成及び認定
- (7) ダンススポーツに関する用具の検定、技術の研究、競技会システム及び審判システムの開発並びに供与
- (8) 機関誌等刊行物の発行
- (9) ダンススポーツに関する国際的競技会及び国際会議への代表者の派遣並びに海外からの選手、役員及び指導者の招聘
- (10) 国際オリンピック委員会（IOC）に承認されたダンススポーツ国際組織に加盟してその行う事業への協力及び相互理解の促進
- (11) 日本オリンピック委員会（JOC）等の国内スポーツ組織への加盟及びその事業への協力
- (12) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

その他、公益事業の推進に資するため、次の事業を行う。

- (1) ダンススポーツの用具等の販売
- (2) その他、上記各号に関連する事業

4. 所轄官庁に関する事項

平成23年4月1日より 内閣府

平成23年3月31日まで 文部科学省 スポーツ青少年局生涯スポーツ課

5. 主たる事務所

平成22年8月1日より 東京都江東区有明3-4-2

6. 会員に関する事項

	(2018年3月31日現在)	(2017年3月31日現在)
正会員	101名	101名
一般会員 ^(注1)	28,344名	30,801名
特別会員 ^(注2)	547名	450名
2種の会員 ^(注3)	28名	0名
3種の会員 ^(注4)	54名	86名
学連会員 ^(注5)	604名	242名
計	29,668名	31,680名

(注1) 都道府県連盟会員 (注2) プレミア会員、ブレイキン会員 (注3) サルサ会員
(注4) 3種加盟団体に登録する会員 (注5) 学生競技ダンス連盟からの登録会員

7. 加盟団体に関する事項

〈1〉都道府県のダンススポーツを統括する団体を加盟団体(1種)

北海道ダンススポーツ連盟
青森県ダンススポーツ連盟
岩手県ダンススポーツ連盟
宮城県ダンススポーツ連盟
秋田県ダンススポーツ連盟
山形県ダンススポーツ連盟
福島県ダンススポーツ連盟
茨城県ダンススポーツ連盟
栃木県ダンススポーツ連盟
群馬県ダンススポーツ連盟
山梨県ダンススポーツ連盟
埼玉県ダンススポーツ連盟
千葉県ダンススポーツ連盟
東京都ダンススポーツ連盟
神奈川県ダンススポーツ連盟
新潟県ダンススポーツ連盟
長野県ダンススポーツ連盟
富山県ダンススポーツ連盟
石川県ダンススポーツ連盟
福井県ダンススポーツ連盟
静岡県ダンススポーツ連盟
愛知県ダンススポーツ連盟
三重県ダンススポーツ連盟
岐阜県ダンススポーツ連盟
滋賀県ダンススポーツ連盟
京都府ダンススポーツ連盟
大阪府ダンススポーツ連盟
兵庫県ダンススポーツ連盟
奈良県ダンススポーツ連盟
和歌山県ダンススポーツ連盟
鳥取県ダンススポーツ連盟

島根県ダンススポーツ連盟
 岡山県ダンススポーツ連盟
 広島県ダンススポーツ連盟
 香川県ダンススポーツ連盟
 徳島県ダンススポーツ連盟
 愛媛県ダンススポーツ連盟
 高知県ダンススポーツ連盟
 山口県ダンススポーツ連盟
 福岡県ダンススポーツ連盟
 佐賀県ダンススポーツ連盟
 長崎県ダンススポーツ連盟
 熊本県ダンススポーツ連盟
 大分県ダンススポーツ連盟
 宮崎県ダンススポーツ連盟
 鹿児島県ダンススポーツ連盟
 沖縄県ダンススポーツ連盟

＜2＞その他の加盟団体

全日本学生競技ダンス連盟(2種)
 特定非営利活動法人日本サルサ協会(2種)
 特定非営利活動法人日本車いすダンススポーツ連盟(2種)
 一般社団法人日本カントリー&ラインダンススポーツ連盟(2種)
 未来ダンサーズ(3種)

8. 役員に関する事項

理事・名誉会長	小野 清子	公財団法人日本オリンピック委員会名誉委員、 元国家公安委員会委員長
代表理事・会長 (注1)	齊藤斗志二	公益財団法人日本オリンピック委員会評議員、 元防衛庁長官
理事・副会長	中井眞一郎	弁護士、元所沢市長、所沢市名誉市民
理事・副会長	田邊 重光	PD 本部長、田邊工業株式会社代表取締役会長、 元 WDSF-PD 副会長
理 事	市原 則之	一般社団法人日本トップリーグ連携機構専務理事、 元公益財団法人日本オリンピック委員会 副会長・専務理事
理 事	舘 博	東京農業大学教授、全日本学生競技ダンス連盟会長
業務執行理事	山田 淳	専務理事、事務局長
業務執行理事	金子 和裕	常務理事・事務局運営担当、北海道ブロック運営委員長 財務委員会委員長、企画委員会委員長、 情報システム本部副本部長
業務執行理事	玉置 朝啓	PD 副本部長
業務執行理事	居樹 保朗	関東甲信越ブロック運営委員会委員長、 資格認定委員会委員長
業務執行理事	中道 俊之	普及本部長、資格試験制度委員会委員長、 構造改革委員会委員長、組織委員会委員長
業務執行理事	山口 剛	競技本部長、競技支援システム部長、

業務執行理事	永井 彰	環境委員会委員長、倫理委員会副委員長
業務執行理事	鵜崎 清貴	国際本部長、倫理委員会委員長、 WDSF 財務エグゼクティブ、ADSF 財務担当理事
業務執行理事	秋田 幸子	ニュージェネレーションダンス本部長、 マーケティング部長、マネジメント部長
業務執行理事	松山 光男	企画委員会委員長、ボールルームダンス本部副本部長
業務執行理事	佐倉 文彦	アスリート委員会委員長、情報システム本部長
業務執行理事	渡辺 英美	マーケティング本部長
監事	鈴木 一夫	公認会計士
監事	小林 克実	東京都ダンススポーツ連盟理事長
監事	武永 実花	NPO 法人日本サルサ協会理事長

【名 誉 役 員】

顧問	秋元 司	衆議院議員、ダンス文化推進議員連盟事務局長
顧問	八木沼純子	ダンススポーツ・アンバサダー、 元オリンピック・フィギュアスケート日本代表選手
特任顧問	仲野 巽	PD 副本部長（本部長業務代行）、選手強化担当
特任顧問	鵜飼 慶司	国際本部担当、前 WDSF 理事、ADSF 会長
特任顧問	溝口 稔	選手強化担当、ジュニア育成部長
特任顧問	金城 庸夫	普及本部担当、ダンススポーツ医科学研究部長
特任顧問	今泉 清隆	マーケティング本部担当、PR 部長
参 与	清水 康夫	元日本アマチュアダンス協会副会長

(注1) 本連盟の代表理事

[II]2017年度事業報告

[総括]

業務執行理事会を毎月開催し（3ヶ月毎に部長会を併催）、部門間の意思疎通を図りながら各本部・委員会が事務局と連携して運営を行った。

全国加盟団体代表者会議を2回（6/24 東京、11/11 松山）実施し、大方針及び懸案事項について全国の会員代表者、加盟団体代表者との意見交換を行った。

ダンス人口高齢化・減少対策に関する中長期課題等、特筆すべき活動を中心に総括する。

1. ダンススポーツのオリンピック正式競技種目化に向けた活動

海外派遣事業に関して、アシガバードでのアジアインドア・マーシャルアーツゲームズにて山本武志・木嶋友美組が金メダルを獲得した。

2018年10月にブエノスアイレスで開催されるユースオリンピック競技大会（YOG）にダンススポーツ競技が正式採用され、種目がブレイクダンスとなったことから、日本のメダル獲得に向けて選手育成、アンチドーピング指導等準備を行った。

- ・12/2 アジア大陸選手権（台北）に男子5名/女子5名の選手を派遣し、男子3名/女子2名（一国の最大数）がYOG最終予選会への出場権を獲得
- ・日本に招致したYOG最終予選会「WDSF世界ユースブレイキン選手権」（2018年5/20、川崎）の開催準備

2. 国民体育大会参加に向けた活動

若年層へのダンススポーツ普及のために、国民体育大会を目指す活動を実施。

(1) 都道府県連盟の組織強化

- ・鳥取県ダンススポーツ連盟、長崎県ダンス連盟等の活動支援

(2) 国民体育大会参加に向けた準備のため11/12 第25回都道府県対抗全国ダンススポーツ大会 in 愛媛の実施

(3) プレミア・ディビジョン（PD部門）拡充による組織強化

3. 超高齢社会への対応とダンス人口拡大に向けた活動

(1) 簡易な社交ダンスの普及

競技会を前提としない楽しみのダンス、ふれあいのダンス交流会等、社交ダンスの普及啓蒙活動を実施。簡易な指導方法の地域への普及と賛同者のネットワーク作りを開始した。

(2) 若年層に向けた新たなダンスファンの開拓

- ・ダンスジャンルの垣根を越えるイベントの啓蒙、外部団体に協力
- ・オールジャパンジュニアDSカップにフリーダンス区分を設置及び地域でのブロック事業や都道府県連盟主催事業での導入促進
- ・人気漫画「ボールルームへようこそ」のTVアニメ化を監修、TV放送と連携したプロモーション活動、若年層を中心にSNS等でダンススポーツの魅力を拡散
- ・ダンススポーツのテレビ番組採用に向けた活動

(3) プレミア・ディビジョン（PD部門）の活動強化

教室を拠点とするダンス人口拡大とアマ・プロ連携による制度整備

- ・WDSF教本に基づく新たな指導者資格認定制度の制定
- ・JDSF認定ダンス教室の制定
- ・PD公認競技会の競技関連規程（8規程）の拡充
- ・会費徴収システムの整備

・各地域の PD ブロック委員会の活動強化とブロックランキング競技会の体系的実施

4. 新ダンススポーツ技術の普及

- (1) WDSF 教本日本語翻訳版・ダンススポーツ教本及びこの教本に準拠した日本独自の DVD をツールとしたダンススポーツ技術の紹介
- (2) 比較的高度なダンスを習得するための DVD (ドリーム・ステージ) の制作と販売

5. 構造改革委員会活動

ダンス人口の高齢化・減少、競技人口の減少傾向に対応しつつ、公益法人としての社会的使命や果たすべき責任を明確にし、将来の JDSF のあるべき姿を検討し、基盤となるサークル認定制度、加盟団体に関する制度を含む組織の抜本的見直しを続けた。

- (1) 会員制度と関連規程の再検討
- (2) 競技会公認制度の見直し
- (3) 公益事業全般のあり方を見直し
- (4) 事務局業務の検証と機能改善
- (5) 加盟団体の事業等への提言

6. 研究開発

- (1) ダンススポーツ医科学研究部の活動として、大学や研究機関と共同で認知症/ロコモティブシンドローム予防効果等検討、選手の競技力向上及びダンサーの怪我予防策を探るためのフィジカルチェック等を実施
- (2) 新審判システムの改善 (AJS3.1J)、ホームページ/SNS の見直し、会員管理システムの見直し、Web エントリーシステム開発等に着手

その他、所定の公益事業を実施した。特に競技会関連では全日本ダンススポーツ統一級の抜本改正を行い、主催競技会を含めて 289 件の公認・承認、延べエントリー 81,332 組となった。

収益事業についても例年通りの活動を行った。

[公益目的事業 1] ダンススポーツの競技会、講習会等を開催し、競技者、指導者の育成及びダンススポーツ愛好者の拡大に努め、もって国民の心身の健全な発達に寄与する事業

1 競技会

当連盟主催の競技会を次のとおり開催した。

(1) 第 20 回東京オープンダンススポーツ選手権

開催日 2018 (平成 30) 年 2 月 25 日(日)

開催場所 東京体育館

競技 WDSF World Open Standard
WDSF International Open Latin
WDSF PD Super Grand Prix Standard
U-23 スタンダード
U-23 ラテン

出場組数 延 163 組

来場者数 約 4,500 人

(2) 第 37 回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権

開催日 2017 (平成 29) 年 10 月 8 日 (日)

開催場所 東京体育館

競技 三笠宮杯全日本選手権・スタンダード

三笠宮杯全日本選手権・ラテン

JOCジュニアオリンピックカップ・全日本選手権ジュニア(St・La)

全日本ダンススポーツ選手権ジュブナイル(St・La)

全日本ダンススポーツ選手権 PD (St・La)

出場組数 延 215 組

来場者数 約 4,500 人

※ 国内最高の競技会として、全国から選抜された選手が集結し、白熱した戦いは観客を魅了した。

(3) 第 25 回都道府県対抗全国ダンススポーツ大会 in 愛媛

開催日 2017 (平成 29) 年 11 月 12 日 (日)

開催場所 松山総合コミュニティセンター体育館

競技 都道府県対抗団体戦

A 級戦・B 級戦・C 級戦・D 級戦(各 St・La)

PD オープン St、シニア II A 級 St、シニア III A 級 St

出場組数 都道府県対抗団体戦 21 チーム

個人戦 延 216 組

(4) 第 12 回オールジャパン・ジュニアダンススポーツカップ 2017 in 東京

開催日 2017 (平成 29) 年 7 月 30 日 (日)

開催場所 BumB 東京スポーツ文化館

競技 ユース(St・La)

ジュニア(St・La)

ジュブナイル(St・La)

女子高校生の部(St・La)

女子中学生の部(St・La)
小学4～6年生の部(St・La)
小学1～3年生の部(St・La)
フリーダンスチーム対抗戦
サルサチーム対抗戦
ソロダンス
出場組数 フリーダンスチーム対抗戦 12チーム
サルサチーム対抗戦 5チーム
個人戦競技 延 512組、ソロダンス競技 226人

(5) 全日本選手権 10ダンス

開催日 2017 (平成 29) 年 6 月 4 日 (日)
開催場所 津島市文化会館
競技 全日本選手権 10ダンス ほか全 15 競技

(6) ダンススポーツグランプリ in 大分

開催日 2017 (平成 29) 年 4 月 16 日 (日)
開催場所 ベっぷアリーナ
競技 グランプリ・スタンダード
WDSF 世界戦選考シニア I・ラテン ほか全 10 競技

(7) ダンススポーツグランプリ in 大阪

開催日 2017 (平成 29) 年 5 月 7 日 (日)
開催場所 不死王閣グリーンホール
競技 グランプリ・ラテン
WDSF 世界戦選考シニア I・スタンダード
WDSF 世界戦選考ジュニア(St・La) ほか全 12 競技

(8) ダンススポーツグランプリ in 静岡

開催日 2017 (平成 29) 年 7 月 23 日 (日)
開催場所 浜松アリーナ
競技 グランプリ・スタンダード
WDSF 世界戦選考ユース(St・La)
WDSF 世界戦選考ジュニア 10ダンス ほか全 12 競技

(9) ダンススポーツグランプリ in 北海道

開催日 2017 (平成 29) 年 8 月 20 日 (日)
開催場所 北海きたえーる
競技 グランプリ・ラテン
WDSF 世界戦選考シニア I・スタンダード ほか全 17 競技

(10) ダンススポーツグランプリ in 仙台

開催日 2017 (平成 29) 年 9 月 17 日 (日)
開催場所 仙台市青葉体育館
競技 グランプリ・スタンダード
WDSF 世界戦選考シニア I・ラテン

WDSF 世界戦選考ユース(St・La) ほか全 19 競技

2 競技会の公認、承認及びエントリー組数

不特定多数の参加者を対象とする競技区分 3 級戦（初級）を含む JDSF 及び下部組織、協力団体が主催する競技会の公認・承認及びエントリー組数は次のとおり（2017（平成 29）年 1 月～12 月）。

公認・承認競技会 289 件（内中止 1 件） エントリー 81,332 組

3 プレミア・ディビジョン（PD 部門）の始動

- (1) オリンピック、国体参加を目指すアマ・プロ区別ない JDSF の組織づくりの実現に向けて、PD 部門（プレミア・ディビジョン）が新設され活動を開始した。
PD 部門は PD 本部及び BR 本部（ボールルームダンス本部）で構成され、PD 本部の下に 5 つの部、BR 本部の下に 3 つの部、両本部に共通の PD 事務局を設置した。
また、GD ブロックに対応する 6 つの PD ブロックを設置した。
- (2) 2017 年度（H29 年度）の PD 登録者数は 666 名（2016 年比+390 名）であった。
うち、PD 登録選手数は 248 名（2016 年比+81 名）
- (3) PD 公認競技規程に従い、PD 公認ランキングポイント競技会及び PD 公認ブロックランキング競技会を計 20 回開催した。
- (4) WDSF 公認 PD スーパーグランプリ・スタンダードを開催した。

4 講習会研修会

(1) 指導員

- ・公認指導員研修会 54 回、新規指導員養成講習会 8 回、選考試験実施 8 回、昇級講習会 1 回、昇級試験 1 回開催した。
- ・第 25 回全国ダンススポーツコンGRESSを開催した。PD と合同開催（2017 年 10 月 7 日～ 8 日）
- ・第 26 回全国ダンススポーツコンGRESSを開催した。PD と合同開催（2018 年 2 月 24 日～25 日）

(2) ジュニア指導員

- ・ジュニア指導員養成講座を計 7 回開催した。
- ・ジュニア指導員検定 2 回（東京、大阪）開催した。
- ・ジュニア指導員研修会 1 回開催した。

(3) 審判員

- ・公認研修会 3 回、承認研修会 13 回開催した。
- ・新審判基準に関する研修会 7 回開催した。
- ・新規審判員認定委員会 1 回開催
- ・WDSF 審判員海外派遣員数 18 大会（18 名）

(4) チェアパーソン（競技長）

- ・公認講習会 5 回、公認研修会 22 回開催した。

(5) スクルティニア（採点管理者）

- ・公認講習会 5 回、公認研修会 19 回開催した。

(6) 技術認定

- ・ブロック、都道府県連盟主催のもと、グレードコース 21 回、ハイグレードコース 17 回開催した。

(7) 選手強化

- ・夏季国内合宿を 8 月に鹿島で 3 日間開催し、56 名が参加した。
- ・海外合宿を 6 月にイタリアで 1 週間開催し、14 名が参加した。

- ・春季国内合宿を3月に鹿島で3日間開催し、48名が参加した。
- ・海外コーチによる特別練習会を5回開催し、126名が参加した。
- ・強化練習会を9回開催し、248名が参加した。
- ・パフォーマンストレーニングを74回開催し、512名が参加した。

5 資格付与

(1) 競技選手 (2017年8月15日現在)

(単位=人)

区 分	スタンダード	ラテン
A 級	1,908	656
B 級	2,846	1,432
C 級	3,711	1,862
D 級	2,696	1,838
1 級	1,050	1,093
2 級	734	1,604
3 級	230	402
無 級	3,336	7,524
計	16,511	16,511

シニア系

区 分	スタンダード	ラテン
シニアⅡA級	1,235	264
シニアⅡB級	475	224
シニアⅡC級	124	73
シニアⅡD級	889	663
シニアⅢA級	1,192	279
シニアⅢB級	707	325
シニアⅢC級	267	119
シニアⅢD級	1,036	601
計	5,925	2,548

(2) 公認指導員 (2018年2月末現在)

(単位=人)

区 分	競技力	普及
A 級	49	224
B 級	249	1,072
C 級	925	766
計	1,223	2,062

甲種特定指導員	1,322
---------	-------

(参考) (公財)日本体育協会認定ダンススポーツ指導者

区 分	コーチ	指導員
	71	229

- (3) 公認審判員(平成 30 年 3 月現在) 180 名
 - A 級審判員 82 名 B 級審判員 55 名 C 級審判員 35 名 D 級審判員 8 名
- (4) ジュニア指導員、ジュニア認定サークル、ジュニア会員、ジュニアアスリートクラブ会員、ユースアスリートクラブ会員 (平成 29 年 3 月末現在)
 - ジュニア指導員 434 名
 - ジュニア認定サークル 57 サークル
 - ジュニア会員 894 名
 - ジュニアアスリートクラブ会員 201 名
 - ユースアスリートクラブ会員 77 名
- (5) チェアパーソン (競技長) (平成 29 年 12 月末現在)
 - 資格者 563 名
- (6) スクルティニア (採点管理者) (平成 29 年 12 月末現在)
 - 資格者 306 名
- (7) 技術認定員 (平成 30 年 3 月末現在)
 - A 級 171 名 B 級 805 名

6 学校教育

- (1) 「学校教育検討委員会」の組織の再構築によりダンスジャンルを広げた検討準備

7 国際関連

- (1) WDSF、ADSF 事業への協力
- (2) WDSF、ADSF 等国际大会への選手派遣
- (3) 国内事業における海外関係への担当、協力、助言
- (4) Olympic 関連イベントへの協力
 - アシガバードでのアジアインドア・マーシャルアーツゲームズへの派遣
(山本武志・木嶋友美組が金メダル)

8 アンチ・ドーピング

- (1) 選手会員へのアンチ・ドーピング広報啓蒙活動を行った。
- (2) 競技支援要員へのアンチ・ドーピング広報啓蒙活動を行った。
- (3) 6 競技会において 24 検体のドーピング検査を実施した。

9 ダンススポーツ・トレーニング・センター (DTC)

DTC 運営に関して、企画立案及び業務支援を行った。
選手強化部をはじめとする専門部開催の講習会や練習会の連盟内使用が中心だが、それに加えて PD 部門の講習会や会議等の使用により DTC をサブ会議室として使用する機会も増加しており、DTC の稼働率は大幅に増加している。

10 新審判基準

三笠宮杯及び各グランプリにおいて、引き続き新審判基準での採点を実施した。本年は、AJS2.1J の本格運用を行いつつ、WDSF の変更に合わせて日本での減点システムを活かした AJS3.0J のシステム開発を行い、4 月からの運用開始の準備を行った。
審判基準についても引き続き、審判員研修会等での教育を実施し基準の明確化を実施した。
また、各グランプリ終了後には審判員のレビュー会議を実施し、審判基準のばらつきを排除と客観化を推進した。

1 1 ジュニア・アスリートクラブ

世界を目指すジュニア、ユースの競技力向上と会員同士の交流を図り、優れた人格形成を目指すアスリートクラブの活動を引き続き行った。

現在会員数 ジュニア 201名 ユース 77名 合計 278名

1 2 ニュージェネレーションダンス本部

- (1) 漫画「ボールルームへようこそ」のアニメ化が決定にあたり、各専門部と協力しながらアニメ制作を監修し、普及のための協力を行った
- (2) アニメ「ボールルームへようこそ」の放送開始にあたり、複数あるイベントへ選手派遣協力とイベント運営協力
- (3) アニメ「ボールルームへようこそ」とのコラボCM制作
- (4) LEGEND TOKYO 7に審査員を派遣
- (5) 三笠宮杯にてアニメ「ボールルームへようこそ」のイベントを開催し、声優との握手会や聖地ツアー等を行う
- (6) 2018 ユースオリンピックに向けて大陸別予選が開始され、アジア大陸予選にブレイクダンス強化選手 10名を派遣。
- (7) 東京オープンオープニングショーを制作するために、オーディション開催して出演者を厳選し JDSF 会員登録した後、オープニングショーを制作し出演させる。初のブレイクダンス部とエンターテイメントダンス部のコラボショーを制作。
- (8) ブルボンダンススポーツ教室の開催

1 3 公益目的事業への支援要請活動

- (1) オフィシャル・パートナー候補の開拓
- (2) 三笠宮杯、東京オープン、グランプリ競技会など主催競技会のスポンサー獲得

1 4 広報活動

- (1) 広報誌「ダンスダンスダンス」の発刊（年4回）
- (2) JDSF ホームページ、Facebook、ツイッターによる周知活動
- (3) マスコミへの働きかけ（毎日新聞社、TBS、フジテレビ等）

独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成事業 2017 年度実施状況

● くじ助成

事業名	実施結果	助成金確定額	助成金の使途
第 12 回オールジャパンジュニア・ダンススポーツカップ 2017in 東京 (於：BumB 東京スポーツ文化館)	ユース、ジュニア、ジュブナイル、女子高校生、女子中学生、小学4～6年生、小学1～3年生の各部門で、スタンダード、ラテンの2区分を行ったほか、1チーム5名以上のフリーダンスチーム対抗戦と、ソロ競技を中学生と小学生以下の2区分で実施した。	1,083,000	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審判員、実行委員への謝金及び交通費 ・ 会場借用料 ・ 大会プログラムの作成 ・ 競技用背番号 ・ その他
ドーピング検査推進事業	大阪、静岡、北海道、仙台の各グランプリ及び 10 ダンス選手権においてドーピング検査を実施した。検体数は計 20 件であった。	3,504,000	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドーピング検査費用 ・ DCO、シャペロン、Nf.rep に対する謝金と交通費
広報誌（Dance Dance Dance）発行	春夏秋冬の4回の広報誌を遅延なく発行することができ、当連盟の運営状況や幅広い会員の活動を全国の会員等へ発信することができた。	6,527,000	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報誌の印刷費 ・ 広報誌の梱包、発送 ・ 取材のための旅費

● 基金助成

第 25 回都道府県対抗全国ダンススポーツ大会 in 愛媛	毎年、国体開催県で開催している。 メイン競技は団体戦で、スタンダード、ラテン各 5 種目で競い、総合優勝チームには内閣総理大臣賞が、また、スタンダード、ラテン A 級戦の優勝者には、文部科学大臣賞が授与される。 その他、愛媛県知事杯争奪戦としてシニア層部門を実施した。	1,303,000	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審判員、実行委員への謝金及び交通費 ・ 会場借用料 ・ 大会プログラムの作成 ・ 競技用背番号 ・ その他
第 20 回東京オープンダンススポーツ選手権	WDSF 公認の世界オープン・スタンダード／ラテンと PD スーパーグランプリ・スタンダード及び U-23 スタンダード／ラテンを実施した。	8,000,000	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審判員、実行委員への謝金及び交通費 ・ 会場借用料 ・ 大会プログラムの作成 ・ 競技用背番号 ・ その他

[収益目的事業1] ダンススポーツに関する物品を企画及び販売する事業

- 1 ダンススポーツ教本、教本 DVD、CD、DVD、オリジナルグッズ等の制作及び販売**
 - (1) WDSF 教本の日本語翻訳版「ダンススポーツ教本」(ワルツ、タンゴ、スロー・フォックス、クイックステップ、ヴィエニーズ・ワルツ、ルンバ、チャチャチャ、サンバ、パソ・ドブレ、ジャイブ)を出版し、これを販売
 - (2) 「ダンススポーツ教本」に準拠した教本 DVD (ワルツ、タンゴ、スロー・フォックス、クイックステップ、ヴィエニーズ・ワルツ、ルンバ、チャチャチャ、サンバ、パソ・ドブレ、ジャイブ)を作成し、販売
 - (3) オランダ業者と提携して音楽 CD の制作販売
 - (4) 各種オリジナルグッズを販売
 - (5) JDSF 制作の DVD の販売